

(本資料は、ロンドンにて2018年10月31日付で配信した発表資料の参考訳です)

**2018年10月31日**

## スタンダードチャータードPLC - 中間経営ステートメント

スタンダードチャータードPLC(以下、「当行グループ」といいます。)は、2018年10月31日付で、2018年9月期に関する中間経営ステートメントを発表しました。すべての数字は特別要因調整後ベースで表示されており、別段の注記がない限り、比較の対象期間は2017年の1-9月としています。

**当期決算について、当行グループ最高経営責任者のビル・ウィンターズは以下のように述べています。**

「当1-9月期の業績は、当行グループが、収益性、バランスシートの質、行動面、利益率の大幅な改善に注力してきたことを反映しています。第3四半期における前年同期比の収益成長率は、アフリカおよび中東の影響を受けて若干低下しました。当行グループは、事業を展開する市場の一部で投資家心理に影響を及ぼしてきた広汎な地政学上の不確実性を引き続き警戒していきます。しかし、当行グループが事業を展開する市場全体にわたって成長のファンダメンタルズは依然堅調であり、私たちは、世界経済の成長については慎重ながら楽観的な見方をしています。」

### 戦略の実行と見通し

- 戦略上および業績面の優先課題に関する一層の進展
  - 広汎な収益拡大と規律あるリスク管理の継続にけん引され、利益は25%増加しました。
  - 有機的な資本の創出とリスク管理の強化により、当行グループの底堅さはいっそう高まりました。
  - ROE(株主資本利益率)は150bp改善して6.6%、RoTE(有形資本利益率)は180bps改善して7.5%に達しました。
- 当行グループの事業拠点の経済における構造的なトレンドは変わっていませんが、不確実性が増しています。
  - マクロ経済の環境は、引き続き、堅調な成長ファンダメンタルズに支えられています。
  - 貿易摩擦の高まりなどのマクロ経済要因が、新興市場の景況感に影響しています。
  - ウェルスマネジメントの収益は年初来では前年同期比8%の増益でしたが、第3四半期は同5%の減益となっています。
  - 当行グループは、世界経済の成長については慎重ながら楽観的な見方を維持しています。
- 当行グループは、2015年に策定された変革プランの実行を大きく前進させました。今後、2018年度の業績発表の際に、今後3年間により高い利益率を実現するための重点分野を発表する予定です。

### 1-9月期の業績ハイライト

- 特別要因調整後の税引前利益34億ドルは、利益率の改善を反映し、前年同期比7億ドル(25%)の増加となりました。
  - 法定ベースの税引前利益も34億ドルとなりました。これには再編関連コストおよびその他の項目の1,700万ドルが含まれています。
- 営業収益は、報告ベースかつ為替変動の影響を除いたベースで、5%増の114億ドルとなりました。
  - 全顧客セグメントで5~8%の伸びを示し、特にGCNA地域が好調で、伸び率は11%に達しました。
  - 純金利収入は10%増加、純資金利ざや(NIM)は5bp増加しました。
  - 第3四半期の収益は、主にアフリカ・中東地域の影響を受けて、前年同期比4%増、前四半期比では1%減となりました。
- 営業費用は前年同期比5%増の76億ドル(為替変動の影響を除くと4%増)となりました。
  - 第3四半期の営業費用は前年同期比1%増(為替変動の影響を除くと横ばい)、前四半期比5%減になりました。
  - 2018年下半期の英国銀行税を除く営業費用は、2018年上半期から横ばいとの予想を継続しています。
- 資産の質は前年同期よりも改善し、第3四半期中も安定していました。
  - クレジットコストは4億800万ドルへ56%減少しました。
  - 当行グループは、地政学上、およびマクロ経済面での不確実性を引き続き警戒しています。

### 2018年6月30日以降のバランスシートおよび資本の変動

- 顧客向け貸付金その他の金銭債権は2%減(為替変動の影響を除くと1%減)の2,510億ドルとなりました。
  - 香港における企業の当座貸越残高の減少およびIPOの減少が影響しました。
- 顧客口座は3%減(同2%減)の3,710億ドルとなりました。

- この主な原因は、ファイナンシャルマーケットを含む企業の非営業預金残高の減少でした。
- 普通株式等Tier 1比率(CET1比率)は14.5%と、同期間中の利益、およびリスク調整後資産の減少を主因として、28ベース・ポイント上昇しました。

## 業績サマリー

	18年 1-9月 (百万 米ドル)	17年 1-9月 (百万 米ドル)	18年 6-9月 (百万 米ドル)	18年 4-6月 (百万 米ドル)	17年 6-9月 (百万 米ドル)	18年 年初来 前年同期比 改善／(悪化) (%)	18年 第3四半期 前年同期比 改善／(悪化) (%)
純金利収入	6,577	6,001	2,190	2,200	2,025	10	8
その他の収入	4,796	4,810	1,534	1,576	1,564	-	(2)
営業収益	11,373	10,811	3,724	3,776	3,589	5	4
その他の営業費用	(6,681)	(6,316)	(2,202)	(2,313)	(2,146)	(6)	(3)
規制関連コスト	(947)	(935)	(309)	(335)	(336)	(1)	8
営業費用	(7,628)	(7,251)	(2,511)	(2,648)	(2,482)	(5)	(1)
クレジットコスト・税引前営業利益	3,745	3,560	1,213	1,128	1,107	5	10
信用減損 <sup>1</sup>	(408)	(931)	(115)	(102)	(348)	56	67
その他減損費用	(127)	(103)	(76)	(27)	(19)	(23)	(300)
関係会社利益	215	207	47	100	74	4	(36)
特別要因調整後の税引前利益	3,425	2,733	1,069	1,099	814	25	31
再編関連コスト	(86)	(233)	(7)	(9)	(68)	63	90
その他の項目	69	28	-	69	28	146	(100)
法定ベースの税引前利益	3,408	2,528	1,062	1,159	774	35	37
税金	(1,063)	(765)	(310)	(369)	(217)	(39)	(43)
当期利益	2,345	1,763	752	790	557	33	35
純資金利ざや(NIM)(%) <sup>2</sup>	1.58	1.53	1.58	1.59	1.53		
特別要因調整後のRoE(株主資本利益率)(%)	6.6	5.1	6.5	5.8	4.8		
特別要因調整後のRoTE(有形資本利益率)(%)	7.5	5.7	7.3	6.5	5.5		
法定ベースのRoE(株主資本利益率)(%)	6.1	4.5	6.3	5.3	4.5		
法定ベースのRoTE(有形資本利益率)(%)	6.9	5.0	7.0	5.9	5.1		
CET1比率(%)	14.5	13.6	14.5	14.2	13.6		

<sup>1</sup> 2017年の信用減損は、IAS39号に基づいて開示されています。

<sup>2</sup> 年換算した年初来の法定ベースの純金利収入を年初来の平均利子資産で割った数値

当行グループは、いくつかの点で事業環境が厳しくなってきたにもかかわらず、2018年の1-9月に著しく収益性を高め、回復力を強めました。

特別要因調整後の税引前利益は25%増加し、再編関連コストとその他の項目を含む法定ベースの税引前利益は35%増加しました。

114億ドルの営業収益は、報告ベースかつ為替変動の影響を除いたベースで5%増、純金利収入は10%増、その他の収益はほぼ横ばいとなりました。トランザクションバンキングにおいては、ファイナンシャルマーケットの不振とコーポレートファイナンス部門の減益が、キャッシュマネジメント、ウェルスマネジメント、リテール商品の好調さによって相殺され、高い収益の伸びを示しました。すべての顧客セグメントで5~8%の伸びを示しましたが、その他の項目が全体的な成長率を押し下げました。収益は、主に、資産ビジネスの利ざや圧縮とファイナンシャルマーケットの手数料収入の減少により、5,200万ドル(前四半期比1%減)となりました。

営業費用は報告ベースでは5%増加、為替変動の影響を除くと4%の増加になりました。総営業費用のうち、規制関連コストは1%増加、その他の営業費用は6%増加しました。これは、当行グループが過去の年度よりもかなり高い水準で投資を続けていること、および、デジタル化を含む戦略的イニシアチブへの投資の割合を増やしていることによるものです。また、投資余力を生み出すためのコスト効率性の確保が継続的に行われているため、当行グループは、英国銀行税を除いた下半期の営業費用は上半期並みの水準となるという予想に対する確信を強めています。英国銀行税は12月31日のバランスシートに計上され、予想額は引き続き約3億1,000万ドルとしています。

信用減損の4億800万ドルは、当行グループのバランスシートの信用の質を改善するために2015年以降に行われた主要な取組みが奏効し、2017年の水準の半分弱となりました。

1億2,700万ドルのその他減損費用は、主に航空機リース資産に関連するものでした。

関連会社およびジョイントベンチャーからの利益は2017年の同期と比べると若干の増加となりましたが、前四半期との比較では、主に当行グループの中国における関連会社投資の寄与度が低下したことにより、半減しました。

2015年11月以降の再編関連コストの総額は31億ドルに達し、プリンシパルファイナンスからの撤退が、残された唯一の重要な項目となっています。

### 顧客セグメント別収益

	18年 1-9月 (百万 米ドル)	17年 1-9月 (百万 米ドル)	18年 6-9月 (百万 米ドル)	18年 4-6月 (百万 米ドル)	17年 6-9月 (百万 米ドル)	18年年初来 前年同期比 改善/(悪化) (%)	18年第3四半期 前年同期比 改善/(悪化) (%)
法人営業部門	5,097	4,847	1,646	1,709	1,629	5	1
リテールバンキング部門	3,888	3,648	1,268	1,281	1,252	7	1
コマーシャルバンキング部門	1,052	998	346	355	338	5	2
プライベートバンキング部門	398	370	127	127	128	8	(1)
その他の項目	938	948	337	304	242	(1)	39
総営業収益	11,373	10,811	3,724	3,776	3,589	5	4

法人営業部門の収益の5%を超える収益の伸びは、トランザクションバンキング部門で堅調なモメンタムが続いたこと、および、利ざやの圧縮によって取引増加の影響が相殺されたコーポレートファイナンスにおける減益を反映しています。ファイナンシャルマーケットの業績は、同期間中の顧客取引の減少により横ばいとなりました。

リテールバンキング部門の収益は、香港とシンガポールにおける増益(特に、住宅ローン/自動車ローンの減収を相殺した預金からの収益)がけん引役となって、7%増加しました。株式市場に影響を与える貿易摩擦の激化その他のマクロ経済要因は、当行グループの市場の一部で個人投資家の心理に影響し、ウェルスマネジメントの成長ペースを鈍化させました。第3四半期のウェルスマネジメントの収益は、2年連続で得られた、通年でのバンカシユアランス売上の早期達成に係る追加的手数料の約4,000万ドルによって、押し上げられました。

コマーシャルバンキング部門の収益は5%増加し、10億ドルを超えました。キャッシュマネジメントの力強い伸びが、利ざや圧縮がレンディングの収益に与えた影響を相殺しました。

プライベートバンキング部門の収益は、ウェルスマネジメント、特にマネージド・インベストメントの良好なモメンタムを反映して8%上昇し、新規資金の純流入額は年初来8億ドル増加しました。

その他の項目の収益は、これらの顧客セグメントの業績を一部相殺し、前年同期比横ばいでしたが、2017年第1四半期のトレジャリ一部門利益を考慮しなければ、9%の増加となりました。これは主に、高い金利の市場で当行グループが余剰流動性を運用したことによるものです。

### 地域別収益

	18年 1-9月 (百万 米ドル)	17年 1-9月 (百万 米ドル)	18年 6-9月 (百万 米ドル)	18年 4-6月 (百万 米ドル)	17年 6-9月 (百万 米ドル)	18年年初来 前年同期比 改善/(悪化) (%)	18年第3四半期 前年同期比 改善/(悪化) (%)
中華圏・北アジア	4,647	4,205	1,550	1,533	1,414	11	10
ASEAN・南アジア	3,031	2,901	958	998	937	4	2
アフリカ・中東	1,980	2,087	604	692	700	(5)	(14)
ヨーロッパ・米州	1,261	1,187	391	429	378	6	3
その他の項目	454	431	221	124	160	5	38
総営業収益	11,373	10,811	3,724	3,776	3,589	5	4

中華圏・北アジアからの収益の11%増は、すべての市場と4つの顧客セグメントすべての成長によってもたらされました。香港は、全セグメントにわたる堅調なモメンタム、およびキャッシュマネジメント、ウェルスマネジメント、預金の好調に支えられて、11%の成長を示しました。この成長は、特に第3四半期における住宅ローンの収益の利ざや圧縮の影響によって、一部相殺されました。

ASEAN・南アジアの収益は、4%、または、2017年の約5,000万ドルのトレジャリ一部門の利益を考慮しなければ6%の改善をみせました。シンガポールではトランザクションバンキングとリテール商品を中心に高い成長を示し、インドでの収益減少を相殺しました。

アフリカ・中東からの収益は5%減少、為替変動の影響を除くと3%減少しました。トランザクションバンキングとウェルスマネジメントの業績が改善しましたが、コーポレートファイナンスとファイナンシャルマーケットの減益の影響がこれを上回りました。マクロ経済および地政学上の逆風が、UAEを中心として第3四半期の業績に引き続き影響を与えました。

ヨーロッパ・米州の収益は6%増加しました。ファイナンシャルマーケットの減収を相殺したキャッシュマネジメントの増収が追い風となりました。

その他の項目からの収益は、財務資本の利回り上昇により5%増加しました。

### 純資金利ざや(NIM)

	18年 1-9月 (百万 米ドル)	18年 1-6月 (百万 米ドル)	18年 1-3月 (百万 米ドル)	17年 1-12月 (百万 米ドル)	17年 1-9月 (百万 米ドル)
法定ベースの純金利収入	6,549	4,361	2,173	8,181	5,985
平均金利資産	554,744	554,214	555,461	527,691	521,599
平均有利子負債	484,157	486,569	487,405	475,432	474,621
総利回り(%)	3.03	2.99	2.90	2.74	2.72
金利支払額(%)	1.66	1.60	1.50	1.32	1.30
純利回り(%)	1.37	1.39	1.40	1.42	1.42
純資金利ざや(%) <sup>1</sup>	1.58	1.59	1.59	1.55	1.53

<sup>1</sup> 年初来の法定ベースの純金利収入を年換算し年初来の平均有利子負債で割った数値

法定ベースの純金利収入は9%増加して66億ドルとなり、当グループの純資金利ざやは5ベース・ポイント上昇して1.58%となりました。世界的な金利上昇が資産利回りを押し上げ、平均金利資産は6%増加しました。これらの要因が重なって、特に当行グループが金利感応度の高い顧客預金を有する割合の高い市場における、負債に対する金利支払額の増加が相殺されました。

第3四半期の純金利収入は、香港で利ざや拡大が続いたことによる影響が、インドと中国における利ざや圧縮によって相殺され、第2四半期から安定的に推移しました。金利が上昇し、また、金利上昇と競争圧力の高まりが相俟って資金調達コストの上昇ペースが資産利回りを上回ったことにより、一部の顧客の間で、より高い金利の定期預金に切り替える傾向が強まっています。

当行グループには、金利感応度が低い当座預金および貯蓄預金の割合が多く、それらが全顧客口座に占める比率は、2018年6月30日から70ベース・ポイント上昇し、50.7%に達しています。世界的に金融政策が正常化に向かうにつれて、引き続き、金利の上昇が当行グループのNIMIにプラスに働くと予想されます。

### クレジットの質

	18年9月30日			18年6月30日		
	通常事業 (百万米ドル)	流動化 ポートフォリオ (百万米ドル)	合計 (百万米ドル)	通常事業 (百万米ドル)	流動化 ポートフォリオ (百万米ドル)	合計 (百万米ドル)
顧客向け貸付金その他の金銭債権	254,801	1,451	256,252	258,825	1,579	260,404
うちステージ1、ステージ2	248,922	109	249,031	252,654	22	252,676
うちステージ3	5,879	1,342	7,221	6,171	1,557	7,728
純顧客向け貸付金その他の金銭債権	250,758	443	251,201	254,639	461	255,100
うちステージ1、ステージ2	248,069	109	248,178	251,749	22	251,771
うちステージ3	2,689	334	3,023	2,890	439	3,329
ステージ3の担保考慮前不良貸付貸倒引当率(%)	54	75	58	53	72	57
ステージ3の担保考慮後不良貸付貸倒引当率(%)	77	89	79	76	90	79
CG(行内信用格付け)12口座(百万ドル)	883	109	992	1,027	22	1,049
アーリーアラート(百万米ドル)	6,871	-	6,871	6,857	-	6,857
投資適格企業へのエクスポージャー(%)	62	-	62	61	-	61

当行グループはより細分化されたリスク選好度の基準に基づいて引き続き質の高いオリジネーションに重点を置き

た結果、全体的なクレジットの質は前年同期よりも改善し、第3四半期も安定しました。当行グループは、地政学上の不確実性の高まりに鑑み、引き続き警戒感をもって臨んでいます。

## 通常事業

通常事業における減損処理済(ステージ3)ローンの総額は59億ドルと、債権売却、償却、返済、および新規減損の減少により、2018年6月30日から2億9,200万ドル減少しました。これらのローンの不良貸付貸倒引当率は、担保考慮前および担保考慮後の両方で1パーセンテージ・ポイント改善し、CG12口座は1億4,400万ドル減少しました。

## 流動化ポートフォリオ

流動化ポートフォリオの総貸付額は、当行グループがこれらのエクスポージャーの処分を進めたことにより、2018年6月30日時点と比べて1億2,800万ドル減少しました。担保考慮前のステージ3の不良貸付貸倒引当率は75%に改善し、担保考慮後では流動化ポートフォリオのステージ3のローンはほぼ90%がカバーされました。

## バランスシート、資本およびレバレッジ

	IFRS9号 18年9月30日 (百万米ドル)	IFRS9号 18年6月30日 (百万米ドル)	IFRS9号 18年3月31日 (百万米ドル)	IAS39号 17年12月31日 (百万米ドル)	IAS39号 17年9月30日 (百万米ドル)
<b>バランスシート</b>					
<b>資産</b>					
銀行向け貸付金その他の金銭債権	55,581	55,603	61,548	57,494	57,661
顧客向け貸付金その他の金銭債権	251,201	255,100	253,572	248,707	244,815
うちリースレポ契約に基づく貸出その他類似の担保付貸出金 <sup>1,2</sup>	8,805	12,781	13,723	54,275	50,698
その他の資産	369,018	371,390	357,602	303,025	324,202
<b>総資産</b>	<b>684,605</b>	<b>694,874</b>	<b>686,445</b>	<b>663,501</b>	<b>677,376</b>
<b>負債</b>					
銀行による預金	31,337	30,816	36,491	30,945	34,784
顧客口座	371,493	382,107	373,094	370,509	367,079
うちレポ契約に基づく借入その他類似の担保付借入金 <sup>3,4</sup>	4,514	5,863	3,445	39,783	51,082
その他負債	225,618	224,600	221,557	170,457	172,329
<b>総債務</b>	<b>632,962</b>	<b>643,386</b>	<b>634,587</b>	<b>611,694</b>	<b>625,274</b>
株式	51,643	51,488	51,858	51,807	52,102
<b>資本及び負債合計</b>	<b>684,605</b>	<b>694,874</b>	<b>686,445</b>	<b>663,501</b>	<b>677,376</b>
<b>預貸率(%)</b>	<b>69.2</b>	<b>68.2</b>	<b>70.5</b>	<b>69.4</b>	<b>66.4</b>
<b>資本</b>					
CET1比率(%)	14.5	14.2	13.9	13.6	13.6
リスク加重資産	265,245	271,867	280,205	279,748	279,989
<b>レバレッジ</b>					
英国レバレッジ率(%)	5.8	5.8	5.9	6.0	5.9

1 18年9月30日時点の貸付金その他の金銭債権52億800万ドル、同6月30日時点の85億5,000万ドルを含みます。

2 18年9月30日時点の顧客向け貸付金その他の金銭債権35億9,700万ドル、同6月30日時点の42億3,100万ドルを含みます。

3 18年9月30日時点の顧客口座39億3,500万ドル、同6月30日時点の29億8,700万ドルを含みます。

4 18年9月30日時点の銀行による預金5億7,900万ドル、同6月30日時点の28億7,600万ドルを含みます。

当行グループのバランスシートは引き続き健全で、流動性が高く、十分に分散されています。

顧客向け貸付金その他の金銭債権は、当座貸越および預金残高がネットベースで決済される香港における企業の当座貸越残高の減少、およびIPOの減少の影響を受け、2018年6月30日から2%、為替変動の影響を除くと1%の減少を示しました。

顧客口座は、企業の非営業預金残高の減少を主因として、2018年6月30日から3%、為替変動の影響を除くと2%減少しました。この結果、当行グループの預貸率は、2018年6月30日時点の68.2%から、第3四半期末には69.2%まで上昇しました。

当行グループのCET1比率は14.5%と、当四半期中に発生した利益により、またリスク加重資産が70億ドル近く減少したことから、2018年6月30日時点より28ベース・ポイント上昇しました。リスク加重資産の減少の原因は主に、信用リスクのリスク加重資産の減少、および、ストレスVaRが低下し市場リスクのリスク加重資産が減少したことによるものです。

半期報告書に開示されたように、当行グループは、健全性監督機構(PRA)と協力して、一部の商品の内部格付モデルにおけるデフォルト時損失率の下限を見直しました。この見直しは第3四半期に完了し、CET1比率への影響はありませんでした。

当期間中に、PRAがすべての銀行について定期的に見直しているピラー2Aの所要水準につき、当行グループに求められる水準が引き下げられたことが通知されました。これを受けて、当行グループは、自身に求められる2019年のCET1の既知の最低比率の要件の予想を10.0%へ10ベース・ポイント引き下げ、コンバインド・バッファーを含む2022年の「自己資本および適格債務の最低基準」(MREL)の予想を、25.7%へ30ベース・ポイント引き下げました。当行グループは、引き続き最低必要資本比率を上回り、予想されるMRELに対しても余裕のある財政状態を維持していきます。

### まとめと今後の見通し

マクロ経済の環境は、依然として、当行グループが事業を行う市場全体にわたる堅調なファンダメンタルズに支えられており、当行グループは、世界経済の成長について慎重ながら楽観的な見方を継続しています。第3四半期中に特にアフリカ・中東地域において事業環境は厳しさを増しましたが、継続的なコスト効率化を含む戦略目標を厳しく実行したことにより、年初に行った財務上のコミットメントを達成する軌道に乗っています。

2015年に策定された戦略的優先事項の実行は、順調に進展しています。利益は一貫して増加しており、世界経済の成長が当初予想よりも鈍化し、2016年に中国人民元が切り下げられたにもかかわらず、当行グループは、2018年に設定した利益率の目標にかなり近づいてきています。私たちは現在、戦略的イニシアチブに3~4倍の投資を行っています。信用減損費用が2016年の約4分の1の水準で推移していることに示されるように、バランスシートの質は大幅に改善しています。また、ビジネス全体にわたって行動とカルチャーの重要性が格段に高まっています。これらの取組みの結果、当行グループは2016年通年の利益と同程度の利益を1四半期で生み出しており、有形資本利益率は年初来で7.5%に上昇しています。英国銀行税は第4四半期に支払われます。

しかし、当行グループの拠点網はさらに多くの可能性を秘めています。2015年に策定された戦略的優先事項は、当行グループを安定させるための適切な優先事項であり、当行グループは、その実行を通じて、当行グループの他行と異なる特色や、お客様が当行グループに望んでいること、そして当行グループがよりシンプルで迅速、より持続可能な利益を得られる銀行になるために何が重要かについて、多くのことを学ぶことができました。2019年2月に発表される通年の決算では、財務利益率のいっそうの向上を目指し、今後3年間当行グループを発展させるために注力する分野を発表します。私たちは、計画を実行し続ければ、10%を超える利益率を生み出すことができると確信しています。

一方で、私たちは引き続き、お客様へのサービスを改善し、すべてのステークホルダーの皆様に、他行と差別化された提案を行うべく務めていきます。

詳細につきましては、以下の担当者にご連絡ください。

Mark Stride, Head of Investor Relations +44 (0)20 7885 8596

Julie Gibson, Head of Media Relations +44 (0)20 7885 2434